

2023年 3 月期 決算説明会 資料

誇れる歴史がある
創りたい未来がある

株式会社 浅 沼 組
(証券コード：1852)



1. 業績（実績・計画）	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 1
（1）主な実績・計画	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 2
（2）受注の内訳	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 5
2. 中期3ヵ年計画の進捗状況	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 6
（1）維持・修繕事業（リニューアル）	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 7
（2）生産労働人口の減少への対応	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 11
（3）非財務経営活動（E S G ・ S D G s 等）	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 14
3. 投資と株主還元	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 17
4. Topics	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 19

1. 業績（実績・計画）

1. 業績（実績・計画）	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 1
（1）主な実績・計画	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 2
（2）受注の内訳	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 5
2. 中期3ヵ年計画の進捗状況	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 6
（1）維持・修繕事業（リニューアル）	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 7
（2）生産労働人口の減少への対応	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 11
（3）非財務経営活動（E S G ・ S D G s 等）	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 14
3. 投資と株主還元	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 17
4. Topics	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 19

1. 業績（実績・計画）

（1）主な実績・計画 ①主要な数値

- ① 2023/3期は国内建築の受注時期の遅れ及び資材高により単体ベースでは売上・利益共に計画未達なるも、シンガポール子会社の好調な業績及び国内土木の大口追加工事を主因とし、連結ベースでは受注・売上・利益共に計画を達成。
- ② 2024/3期はシンガポール子会社の業績計画を例年並みとしたことに加え、持越工事内容も鑑み、営業利益ベースで中期計画比▲27億円の方修正。但し、当期利益及び配当は中計通り実施予定。

主要項目 （連結） （単位：百万円）	2022/3期			2023/3期				2024/3期		
	中期 計画	実績	中計比	中期 計画	修正 計画	① 実績	修正計画比	中期 計画	② 修正 計画	中計比
受注高	132,100	136,568	4,468	141,500	141,600	144,743	3,143	146,600	144,700	△1,900
売上高	140,000	135,478	△4,521	135,500	144,300	144,436	136	137,334	141,800	4,466
売上 総利益	13,900	13,444	△455	15,261	14,630	15,139	509	15,443	13,950	△1,493
売上 総利益率	9.9%	9.9%	0.0P	11.3%	10.1%	10.5%	0.3P	11.2%	9.8%	△1.4P
販管費	8,560	8,609	49	8,728	9,020	9,447	427	8,710	9,850	1,140
営業利益	5,340	4,835	△504	6,533	5,610	5,691	81	6,733	4,100	△2,633
親会社株主に 帰属する 当期純利益	4,170	3,748	△421	4,400	4,120	4,200	80	4,540	4,540	中計 通り
配当	363円	363円	中計 通り	* 191円 (382円)	* 191円 (382円)	* 191円 (予定)	中計・ 修正計画 通り	* 197.5円 (395円)	* 197.5円 (395円)	中計 通り
配当性向	70.2%	78.1%	7.9P	70.1%	74.8%	73.3%	△1.4P	70.2%	70.2%	中計 通り

*2022年8月1日を効力発生日として実施した株式分割（普通株式1株につき2株の割合）を考慮した金額を記載

1. 業績（実績・計画）

（1）主な実績・計画 ②経営指標

- 営業利益率は3期連続中期計画未達（下表①）
- 一方、ROE（自己資本利益率、下表②）は株主資本コスト、ROIC（投下資本利益率、下表③）は資本コスト（WACC）を各期とも上回る水準にて確保
- PBRについても1倍以上を確保（下表④）

主な経営指標 （連結）	2022/3期			2023/3期				2024/3期		
	中期 計画	実績	中計比	中期 計画	修正 計画	実績	修正計画比	中期 計画	修正 計画	中計比
① 営業利益率	3.8%	3.6%	△0.2P	4.8%	3.9%	3.9%	—	5.0%	2.9%	△2.1P
ROE （自己資本利益率）	10.1%	9.0%	△1.1P	10.2%	9.6%	9.7%	0.1P	10.0%	10.2%	0.2P
株主資本コスト	8.0%	7.5%	△0.5P	8.0%	7.5%	5.5%	△2.0P	8.0%	5.5%	△2.5P
ROIC （投下資本利益率）	7.1%	6.4%	△0.7P	8.3%	7.3%	7.3%	—	8.3%	5.2%	△3.1P
WACC （資本コスト）	6.0%	6.1%	0.1P	6.0%	6.0%	4.7%	△1.4P	6.0%	4.7%	△1.3P
PBR （株価純資産倍率）	—	0.9倍	—	—	—	1.1倍	—	—	—	—

1. 業績（実績・計画）

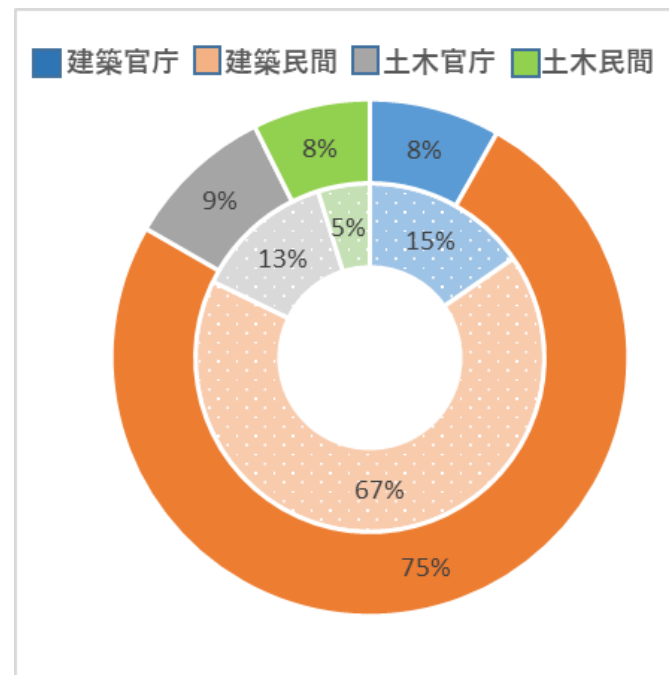
（2）受注の内訳

① 単体では、**建築民間が堅調に推移**

② 土木は前期比マイナスだが、建築でカバーし、**連結受注計画1,416億円を達成**

（単位：百万円）

		2022/3期	2023/3期	
		実績	実績	前期比
親会社 単体	建 築	110,110	113,277	3,167
	官庁	20,600	11,131	△9,469
	民間	89,509	102,146	12,637
	土 木	23,876	22,666	△1,210
	官庁	17,431	12,666	△4,765
	民間	6,444	9,999	3,554
	建土計	133,986	135,943	1,957
	官庁	38,032	23,798	△14,234
	民間	95,953	112,145	16,192



円グラフ：個別受注状況

外側：2023/3期

内側：2022/3期

海外子会社	2,582	8,812	6,230 ¹
-------	-------	-------	--------------------

連 結 ²	136,568	144,743	8,174
------------------	---------	---------	-------

1. 2022年1月に買収したシンガポール子会社Evergreen社の連結子会社化に伴う増加

2. 連結調整後の数字

2. 中期3ヵ年計画の進捗状況

1. 業績（実績・計画）	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 1
（1）主な実績・計画	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 2
（2）受注の内訳	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 5
2. 中期3ヵ年計画の進捗状況	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 6
（1）維持・修繕事業投資（リニューアル）	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 7
（2）生産労働人口の減少への対応	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 11
（3）非財務経営活動（ESG・SDGs等）	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 14
3. 投資と株主還元	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 17
4. Topics	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 19

中期3ヵ年計画における基本方針：浅沼組らしさ(独自性)を深耕させ「変化に挑戦」

変化 (1)	外部環境変化「長期的に縮小する国内建設投資とインフラ・建築構造物の老朽化」に対する 国内維持・修繕事業投資（リニューアル）
	対する打ち手 ①『ReQuality』ブランド戦略の推進 ② 技術の高度化 ③ ASEAN地域での事業強化
変化 (2)	生産労働人口の減少への対応
	対する打ち手 ① 協力会社との協働推進 ② DX推進
変化 (3)	非財務経営活動(ESG・SDGs等)による企業評価向上の機運
	対する打ち手 ① エコフレンドリーASANUMA21の推進 ② サステナビリティの推進 ③ コーポレートガバナンス体制の強化

2. 中期3ヵ年計画の進捗状況

(1) 維持・修繕事業（リニューアル） 実績・計画

- リニューアル事業は、中期3ヵ年計画最終年度2024/3期における目標である「建築リニューアルの営業利益を連結営業利益の35%」達成に向け、着実に拡大中

建築リニューアル（国内外合計）連結営業利益に占める割合

（単位：百万円）

	2022/3期	2023/3期		2024/3期
	実績	実績	前期比	計画
営業利益シェア	30.0%	31.0%	1.0P	35.2%

内、国内 建築リニューアル

受注高	16,620	17,553	932	20,000
完成工事高	17,094	17,376	282	18,000
営業利益	1,503	860	△643	1,120
営業利益シェア	31.1%	15.1%	△16.0P	27.3%

内、ASEANリニューアル

受注高	2,582	8,812	6,230	9,700
完成工事高	2,335	10,885	8,549	10,000
営業利益*	△52	902	955	323
営業利益シェア	△1.1%	15.9%	16.9P	7.9%

* ASEAN子会社ののれん償却費を含む

2. 中期3ヵ年計画の進捗状況

(1) 維持・修繕事業（リニューアル）①『ReQuality』ブランドの推進

- リニューアル事業を「ReQuality」という名でブランド化し、モデルケースとしてリニューアルした名古屋支店は、WELL認証ゴールドの取得の他、グッドデザイン・ベスト100等、多数を受賞

名古屋支店改修プロジェクト



- ・ 循環型の環境配慮をテーマとした 長期的な視点をもったデザイン
- ・ 環境配慮に加え 健康で快適なオフィス空間を実現。
建物の利用者の健康や快適性を評価する「WELL認証 ゴールド」を 取得
(築30年のオフィス全体の改修での認証取得は 日本初)

グッドデザイン・ベスト100に選出*その他多数受賞（主な受賞一覧は以下）

- ・ crQlr Awards（サーキュラー・アワード）2022 アーバニズム賞
- ・ Sky Design Awards 建築部門Silver賞
- ・ 第1回SDGs建築賞 準グランプリ
- ・ 中部建築賞
- ・ 環境・設備デザイン賞 第II部門優秀賞



「ReQuality」ブランドのロゴ



WELL認証ゴールドの証書

* 主催：公益財団法人日本デザイン振興会

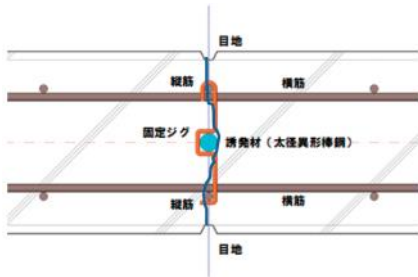
2. 中期3ヵ年計画の進捗状況

(1) 維持・修繕事業（リニューアル） ②技術の高度化

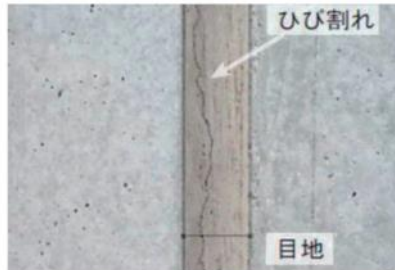
■ 耐震補強や建物の長寿命化等に関する**弊社独自技術**を用い、顧客宛の建物リニューアル提案を強化

建物の長寿命化

コンクリートのひび割れを制御（目地へ誘発）し、壁面や床面にひび割れを起こさずきれいな状態を保存でき、且つ長寿命化に寄与（CCB工法¹・PRS目地充填工法²）



CCB工法概要断面図



CCB工法によりひび割れ誘発



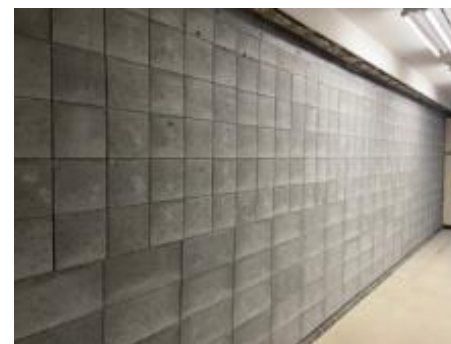
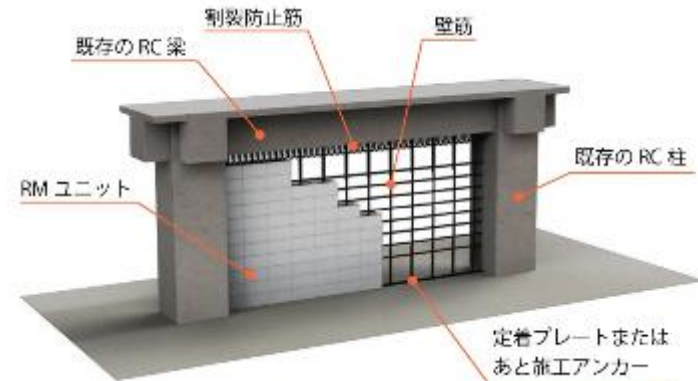
PRS目地充填工法施工状況



PRS目地充填状況

耐震補強技術

建物を使用しながら、耐震化が可能（安震ブロック）
建物内にRM増設壁を構築し、耐震壁(RM増設耐震壁)として機能させる耐震補強工法（RM耐震補強工法）



2. 中期3ヵ年計画の進捗状況

(1) 維持・修繕事業（リニューアル） ③ASEAN地域での事業強化

- シンガポールでは買収した2社のリニューアル関連子会社の業績が堅調推移
- タイでは炭素繊維シートによる橋等の補強事業を推進（JICA支援事業に認定）

シンガポール

名 称	取得	事業内容	2023/3期 実績（百万円）			
			受注	売上	営業利益	のれん
SINGAPORE PAINTS & CONTRACTOR PTE. LTD.	2018年10月	建物塗装 修繕工事	5,142	3,400	32	34
EVERGREEN ENGINEERING & CONSTRUCTION PTE. LTD.	2022年1月	建物メンテナンス 電気・設備工事	3,670	7,485	1,217	312

タイ

- ・ 東レ株式会社、東レインターナショナル株式会社と協働し、炭素繊維シートによる橋・高架橋の補強事業を推進中
- ・ 2021年にJICA SDGsビジネス支援事業に採択。2023年1月に事業の契約を完了
- ・ 現在、タイ国運輸省道路局所管の橋・高架橋の補強工事の施工を準備中

名 称	事業内容	設立
Thai Asanuma Holdings Co.,Ltd.	持株会社	2021年 6 月
Thai Asanuma Construction Co.,Ltd.	高速道路・橋梁のメンテナンス	2021年 7 月

2. 中期3ヵ年計画の進捗状況

(2) 生産労働人口の減少への対応 ①協力会社との協働推進

■ 協力会社との協働強化を目的に、**処遇改善、取引条件の向上、表彰制度の活用**等を実施

処遇改善・取引条件の向上

建設キャリアアップシステム(CCUS)の推進	- 技能者の資格や現場での就業履歴等を登録・蓄積し、技能・経験に見合った処遇を企図した国土交通省と建設業界団体が官民一体で推進するシステム - CCUSの取組み状況が優良な作業所・協力会社への表彰制度を2022年度より開始
協力会社宛支払いの100%現金化	協力会社宛支払いは手形を使用せず全て現金払いへ(2020年1月支払いより)

表彰制度の活用

浅沼マイスターの推進	- 協力会社の職長の中から「浅沼マイスター」を選任 - 奨励金の授与を行い賃金面から処遇を改善 2023年度認定更新よりCCUSへの登録を対象要件として追加
作業所生産性向上策表彰及び発表会開催	各作業所における協力会社との協働による生産性向上策を募集し、表彰、発表会を開催



研修の開催

協力会社との研修	- 協力会社で構成する弥生会の会員の技術者を対象に研修会を実施 - サステナビリティ基本方針、人権方針、調達方針の周知 - VRや安全帯による安全講習
----------	---



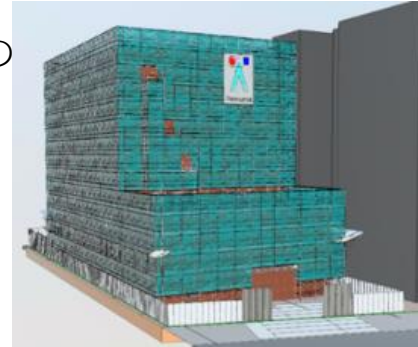
2. 中期3ヵ年計画の進捗状況

(2) 生産労働人口の減少への対応 ②DX推進 (1/2)

■ DX推進委員会にて、既存業務の高度化や効率化に資するDX化を推進

BIM・CIM¹関連の導入推進

- ・ 設計図面を3次元にすることで仕様や構造の検討の高度化・効率化
- ・ 設計段階だけでなく施工時やその後の維持管理時における関係者間の合意形成・情報共有が容易
- ・ 工程管理の効率化、高度化によるミスや手戻りの減少、安全性の向上



仮設計画のモデル化

タブレットを使用

- ・ 工事写真の整理、一元管理
- ・ 各作業工程の検査をタブレットにて実施
- ・ 会議システムとの連携によりリアルタイムの監理が可能



タブレットで仕上がりを検査



遠隔地からの監理が可能

書類・業務の電子化

- ・ 契約書、注文書、請求書などの電子化：CI-NET²の導入拡大へ
- ・ 建退共の事務手続きの電子化：CCUSとの連携拡大へ

1. Building Information Modeling、Construction Information Modeling。3次元建物モデルに属性情報を持たせたもの。企画・設計・施工・維持管理等にて一貫して使用することができる。

2. Construction Industry NETwork。建設生産に関わる様々な企業間の情報をネットワークを利用して交換するための仕組み。(出典(社)建設業振興基金)

(2) 生産労働人口の減少への対応 ②DX推進 (2/2)

■ VRの活用、更なるDX化に向け他社との共同開発を実施

他社との共同開発

- 「建設RXコンソーシアム」に参加し、ロボット、パワースーツ等の使用を他社と検討
 - ✓ 資材を自動で搬送するロボットの試行運転を実施
- 「共研21」では配筋検査システムのデジタル化を研究

VRの活用

- **安全教育**
 - ✓ 個別の作業所ごとに今後設置する足場の配置をVRで再現
 - ✓ 事前にVRで再現することにより、今後の作業手順の確認が可能
 - ✓ 作業イメージが出来、安全意識の向上が図れ、新たな気づきや手戻りの防止などに繋がる



VRモデル（点群データ+3Dモデル）



VRによる安全教育訓練の様子



• 施工検討会



• 学生等への郊外学習



2. 中期3ヵ年計画の進捗状況

(3) 非財務経営活動(ESG・SDGs等) ①エコフレンドリーASANUMA21 (脱炭素化)

- 脱炭素化の取り組み施策「エコフレンドリーASANUMA21」を推進
- **CO₂削減目標にスコープ3（カテゴリ11）を追加**する他、**全ての新規着工作業所へ再生可能エネルギー電力の導入**や、**環境配慮型コンクリートを開発・顧客宛提案**を実施

長期CO₂削減目標に、スコープ3の削減目標を追加

対象		単位	基準年度		目標年度	
			年度	排出量	2030年度	2050年度
スコープ1+2 (建設工事のみ対象)	原単位	t-CO ₂ /億円 *	1990	30	15 ▲50%	9 ▲70%
	総量	t-CO ₂	1990	74,193	20,032 ▲73%	11,871 ▲84%
スコープ3 カテゴリ11 (自社設計+他社設計)	総量	t-CO ₂	2021	693,428	589,414 ▲15%	450,728 ▲35%

*完工高1億円当たりの排出量

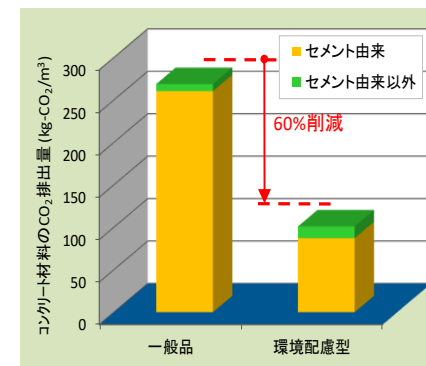
スコープ1：事業活動で発生するCO₂
 スコープ2：電気ガスの使用による間接排出のCO₂
 スコープ3：お客様にお引渡しした建築物の使用時に排出されるCO₂

再生可能エネルギー100%の電力を 新規着工作業所全てに導入



再生可能エネルギー供給の概念図

環境配慮型コンクリート 耐久性を確保しCO₂を60%削減



2. 中期3ヵ年計画の進捗状況

(3) 非財務経営活動(ESG・SDGs等) ②サステナビリティの推進

- サステナビリティ推進委員会にて、ESG・SDGsに関連する取り組みを推進

「サステナビリティ推進委員会」の主な取り組み

環境経営推進に向けた取り組み

- ・ 環境経営推進に向け、ワーキンググループを設置し技術面から検討
- ・ 技術発表会での「環境技術賞」創設し、2022年度から表彰制度導入

T C F D（気候関連財務情報開示タスクフォース）関連活動の推進

- ・ ガバナンス、リスク管理（4℃と1.5℃のシナリオ分析）、戦略、指標と目標をウェブサイトの開示
- ・ 気候変動関連の中長期的目標策定

スコープ1,2

スコープ3 カテゴリ11

原単位と総量の目標

総量目標（2023年度より対応）

人権方針、調達方針策定、マルチステークホルダー方針策定

- ・ サステナビリティ基本方針に加え、人権方針、調達方針、マルチステークホルダー方針を策定し、ウェブサイトを開示

パートナーシップ構築宣言

- ・ 取引先や価値創造を図る事業者との連携・共存共栄を進め、新たなパートナーシップを構築することを、「発注者」側の立場から宣言



その他の検討課題

- ・ サステナビリティ経営における「KPI」設定と、中核人材や多様性の確保、人材育成方針や人権に配慮した施策の策定に向けた検討

2. 中期3ヵ年計画の進捗状況

(3) 非財務経営活動(ESG・SDGs等) ③コーポレート・ガバナンス体制強化

■ コーポレート・ガバナンス体制強化に向けた取り組みを以下の通り継続実施

コーポレート・ガバナンスのさらなる強化

取締役会・監査役会の 社外役員構成比	- 取締役会の社外取締役の割合 1／3（内、女性社外取締役 1名） - 社外監査役の割合 3／4（内、女性社外監査役 1名）
取締役会の実効性評価	- 外部機関による実効性評価を継続実施（2019年度より開始） - 評価は平均以上
指名・報酬委員会の運営	- 両委員会の委員長を社外取締役とし、構成は、過半数が社外取締役 - 相応の開催回数にて審議（2020年度 6回、2021年度 7回、2022年度 3回）
役員報酬制度	譲渡制限付株式報酬制度を導入し継続付与（2021年度より開始）
I R の強化	- 各種説明会・面談を継続実施 ✓ 機関投資家向け説明会（2022年度 2回） ✓ 個人投資家向け説明会（2022年度 2回） ✓ 機関投資家面談（2022年度 15回）
保有株式について	<u>上場株式の保有適否判断基準を設定し、每期取締役会にて確認</u> <u>判断基準：配当と工事粗利益の便益が株主資本コストを下回る場合に縮減</u> ✓ 2023年3月末時点の上場株式残高 <u>39.1億円</u> 連結純資産比率 <u>8.8%</u>

3. 投資と株主還元

1. 業績（実績・計画）	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 1
(1) 主な実績・計画	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 2
(2) 受注の内訳	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 5
2. 中期3ヵ年計画の進捗状況	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 6
(1) 維持・修繕事業（リニューアル）	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 7
(2) 生産労働人口の減少への対応	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 11
(3) 非財務経営活動（E S G ・ S D G s 等）	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 14
3. 投資と株主還元	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 17
4. Topics	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 19

3. 投資と株主還元

- 「利益が生む資金を投資と株主還元に配分」が基本方針
- 2023/3期までの2年間の投資と株主還元は以下の通り。配当性向は各期共70%以上確保予定

投資・資金投入計画	修正前 3ヵ年累計	修正後 3ヵ年累計 ¹	2023/3期 2ヵ年累計 実績
技術開発・ICT関連投資 (リニューアル技術の高度化、DX推進)	30億円	29億円	17億円
新領域関連投資 (ASEAN地域におけるリニューアル強化)	50億円	34億円	29億円
計	80億円	63億円	46億円

配当性向 (連結)	修正前	修正後	2023/3期 予定
	50%以上	70%以上	73.3%

1. 2021年11月18日に開示した修正計画。「新領域関連投資（ASEAN地域リニューアル強化）」の一部の投資額が確定したことを踏まえ、それ以外の「技術開発・ICT関連投資」を含めた全体の資金投入計画を改めて検討・見直しを行ったことにより、当初の資金投入計画を減額し、株主還元を増額。

1. 業績（実績・計画）	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 1
(1) 主な実績・計画	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 2
(2) 受注の内訳	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 5
2. 中期3ヵ年計画の進捗状況	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 6
(1) 維持・修繕事業（リニューアル）	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 7
(2) 生産労働人口の減少への対応	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 11
(3) 非財務経営活動（E S G ・ S D G s 等）	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 14
3. 投資と株主還元	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 17
4. Topics	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 19

4. Topics

R2 荒川左岸治水橋橋梁部対策工事

淺沼組



施工箇所の川裏には民家、川表には自動車教習所やスポーツ施設等の公共施

そこで、本工事では盛土工事における起工測量・法面整形・締固め管理・出来形管理等をICT施工で実施し、効率化・省力化を図ることで施工性の向上および工程短縮に結びつけていきたいと考えている。

現場代理人 平藤啓晃

ICT施工で迅速に工事を推進

令和元年東日本台風では、各地で戦後最大規模を超えた洪水による甚大な被害が発生した。そのことを踏まえ、荒川における事前防とを躍ませ、荒川における事前防災対策を進めることを目的とした荒川水系流域治水プロジェクトが立ち上げられた。本工事はその一環であり、堤防のかさ上げ・拡幅・県道56号線の陸間の基礎工事を実施している。

設が隣接し、令和元年の台風時には洪水の危機を経験された方も多数住む地域である。近隣の方々が一日も早く、安心して生活していただけるよう迅速に工事を進めていかなければならない。

今宮工科高生が実務を体感



大建協

兄学会に先立ち、浅沼組の大谷所長が工事概要を説明し、着工時点から現在までの現場写真を見せながら建築のプロセスについて解説した。その後、生徒らと現場職員で施工の様子を見て回った。

兄学会後は、生徒から多くの質問が寄せられた。「2級土木施工管理技術検定の受験を志しているが、建築の現場でも役立つか」との質問に、大谷所長は「建築分野に携わるなら建築について学ぶことが最重要ではあるが、土木の知識があるに越したことはない。建設業界にはさまざまな分野があるので広く関心を持ってもらい、将来のスキルを伸ばしてほしい」と話した。

モリタ新拠点開発の現場見学



(仮称)モリタ新拠点のイメージ

最後に、生徒代表がお礼の言葉として「施工管理について勉強はしてきたが、実際に現場を

見ることで気付くことが多々あった。座学で学んできたことへの理解が深まったように思う。今回の経験を糧にして、これから自分の力を伸ばしていきたい」とおっしゃった。

工事では、モリタホールディングスの夫娘・研究施設一（仮称モリタ新拠点）を整備する。約2万2250平方メートルの敷地に4棟の建物を建築する。施設の規模は、A棟・B棟がS造3階建て、C棟がS造6階建て、D棟がS造2階建てで、合計の延べ床面積は約8188平方メートル。設計・工事監理は三菱建設設計が担当。

建設地は八尾市神武町24-1-2417。2022年5月に着工し、現在の進捗率は70%。23年5月の完成を目指す。

2023/2/13 日刊建設通信新聞

仮想現場で体験学習
建設現場 BIM モデルを活用

建設組合 BIMモデルを活用

渡辺組の日本は、BIMモデルを活用したバーチャル建設現場内で施工管理の発した。バーチャル建設現場



また、多くの現場を保護して、現場で起こり得る事故や不具合を経験でき、対応

にサービスを提供する。

「現拠トリーナー」の開設には、▽青木あすなろ建設▽渡辺沼田共立建設▽佐藤工業▽木本建設▽高松建設▽飛鳥建設▽りんかい口産業建設▽コンビュータシスファクトリーの日社が関わった。17年に渡辺組が開業した。17年から日社で本格的なシステム開発を進めている。

現拠トリーナーは、リアルな現場体験がパソコンで行なえ、現拠字がどこでも可能になる。バーチャル現拠内に「各種の問題解決」は質問などのイベントを通じて

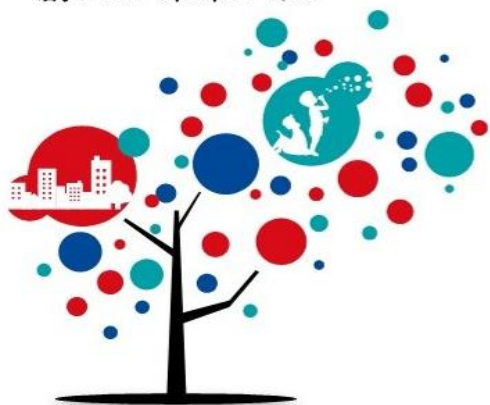
見・解決しながら学習する。ステージ」と、「クイズ形式でテキストや画像問題を出題するステージ」の二つを用意。ユーザーの解答に対して、対応する解説や資料で指示する。安全な品物の在庫に完売する状況や、想像力が高く、実際に現象や経験を積み重ねないと取得できない知識を海や経験がでる。日社で委員会を組織し、新コンテンツや新サードパーティの検討、開発を進める。目からパソコン版、iPad版を順次リリースする予定。開発したゲームは社外にもサブスクリプション（定額支払い制）契約で提供される。

2023/3/20 日刊建設工業

2023/1/31 日刊建設通信新聞

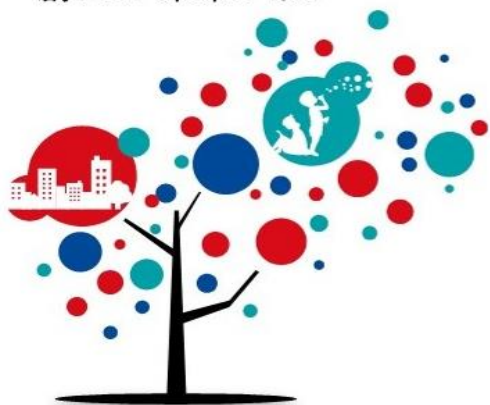
MEMO

はこ
誇れる歴史がある
つく
創りたい未来がある



MEMO

はこ
誇れる歴史がある
つく
創りたい未来がある



The logo for Asanuma, featuring a stylized blue 'A' with a red dot above it.

株式会社 浅沼組

2023年5月18日

はこ
誇れる歴史がある
つく
創りたい未来がある



お問合せ先

コーポレート・コミュニケーション部

T e l 06-6585-5500

F a x 06-6585-5556